

2021年7月20日

ENEOSと三菱ケミカル共同のプラスチック油化事業実施について ～国内最大規模のプラスチックケミカルリサイクル設備を建設～

ENEOS株式会社
三菱ケミカル株式会社

ENEOS株式会社（本社：東京都千代田区、社長：大田 勝幸、以下「ENEOS」）と三菱ケミカル株式会社（本社：東京都千代田区、社長：和賀 昌之、以下「MCC」）は、この度、MCC茨城事業所においてプラスチック油化共同事業（以下「本共同事業」）を開始することを決定しましたので、お知らせいたします。同事業所に、商業ベースでは国内最大規模となる年間2万トンの処理能力を備えたケミカルリサイクル設備を建設し、2023年度に廃プラスチックの油化を開始することを目指します。

ENEOSとMCCは、2019年に鹿島コンプレックス有限責任事業組合（以下「LLP」）を設立し、茨城県鹿島地区の石油精製および石油化学事業の更なる連携強化の検討を行っております。その一環として、廃プラスチック問題が世界的課題となっていることを踏まえ、プラスチック製造のサプライチェーンに関する事業者として循環型社会形成に貢献することをテーマの一つに据え、ケミカルリサイクルの技術検討を進めてまいりました。本共同事業に関する合意は、これらの検討の結果によるものです。

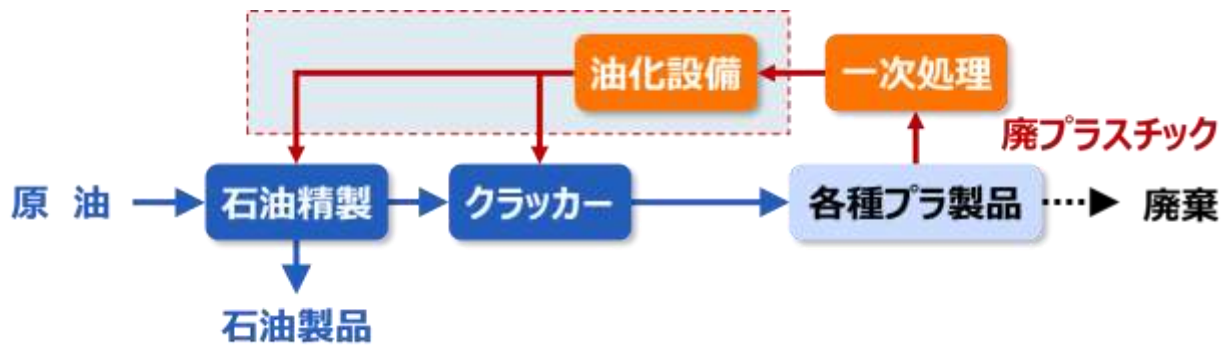
本共同事業では、外部から調達した廃プラスチックを、英 Mura Technology 社の超臨界水技術を導入する新設備にて化学的に液化し、油化処理を行います。製造された油（リサイクル生成油）は、両社の既存設備である石油精製装置およびナフサクラッカーにおいて原料として使用され、石油製品や各種プラスチックへと再製品化されることで、高効率なケミカルリサイクルの循環が実現します。

今後、両社は、原料廃プラスチックの安定調達、サーキュラーエコノミーに係る認証*取得などによる製品の高付加価値化、および次世代事業として更なる技術的知見の習得を図ります。

引き続き、循環型社会の形成につながる本共同事業を通じて、持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）の目標12「つくる責任 使う責任」の達成に確実に貢献してまいります。

※ プラスチック製品へのケミカルリサイクル品認証および石油製品への温室効果ガス削減などの認証

(: 共同事業範囲)



<LLPの概要>

名称 : 鹿島コンプレックス有限責任事業組合
設立日 : 2019年11月15日
所在地 : 茨城県神栖市東和田
出資金 : 2,000万円
出資比率 : ENEOS 50%、MCC 50%

<連携強化検討の対象事業所の概要>

- ・ 鹿島製油所(鹿島石油株式会社および鹿島アロマティックス株式会社)
 - 所在地 : 茨城県神栖市東和田4番地
 - 操業開始 : 1970年4月
 - 原油処理能力 : 203.1千バレル/日(コンデンセート処理能力35.1千バレル/日を含む)
 - 主要生産品目 : 石油製品、石油化学製品(パラキシレン等の芳香族製品)
- ・ 茨城事業所(三菱ケミカル株式会社)
 - 所在地 : 茨城県神栖市東和田17番地1
 - 操業開始 : 1970年4月
 - エチレン生産能力 : 564千トン/年
 - 主要生産品目 : 石油化学製品(エチレン・エチレン誘導品、プロピレン・プロピレン誘導品等)

以 上

お問合せ先
ENEOS 株式会社 広報部広報グループ
TEL 03-6257-7150
三菱ケミカル株式会社 広報本部
TEL 03-6748-7161